

## 授業時 子供の発言をつなげる

小学校5年生の道徳の授業である。

街角であったひとりぼっちの少年に手品師は手品を見せ、また会うことを約束しました。約束の日には、手品師は夢にまで見た大劇場出演のチャンスを断って、少年との約束を守りました。

U教諭：「その時の手品師の気持ちはどうだったかな。」

Vさん：「ぼくは、少年に会いに行けてよかったと思ってると思う。

Wさんはどう？」

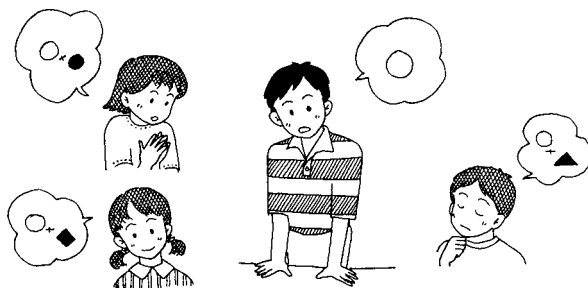
Wさん：「劇場に行けば少年のことが気になって手品がうまくできないと思うので、私も少年と会ってよかったと思う。Xさんはどう？」。その後、相互に指名し合い同様な意見が続々と出てきた。

U教諭：「はい。それでは、全然違う意見の人はいませんか。」

Yさん：「大劇場に行けなかったのは、残念だったと思います。」

U教諭：「残念だったか。友達の意見を聞いて、さらに自分の考えを言える人は。はい、Zさん。」(と挙手したZさんを指名。)

Zさん：「Yさんの言うように劇場に出られなくて残念だったと思うけど、大劇場は自分が行かなくても誰かが代わりにやるけど、その子には自分しかいないから、行ってよかったと思う。」



他人の意見に耳を傾け、互いの意見をしっかり聞くことは、それぞれの考え方を深める良い機会になります。

### 子供同士の相互指名を取り入れる

友達と同じ意見であっても、また、違ったものであっても、自分の考えを自分の言葉ではっきり述べることは、考えを整理し、自分を理解することにつながります。また、友達の意見を聞くことは、多様な考え方を知るとともに、友達一人一人を個性をもった存在として受け入れ、互いにより深く理解し合うよい機会となります。

事例では、子供が順に次の発言者を指名する相互指名の方法を取り入れています。その中で、同じような意見が続いた後で、教師は「全然違う意見の人。」というように問いかけて、発表される意見が偏らないよう気を配っています。相互指名を生かすには、常に学級全体に目を向け、時には、指名に際して助言するなど、指導者としての自覚が必要です。

### 他の人の意見を聞いて、考えを深めさせる

自分の意見と反対の意見や異なった意見を退けるのではなく、冷静に聞き、どこが違うのかを知り、なぜ違うのかを考えることは重要です。他の人の考えを聞くことで、自分が気付かなかった点や違う角度からの考え方を示され、自分の考え方が深まります。

子供の発言をつなげる授業を展開するには、車座になるなど机の配置や教師の立ち位置を工夫すると効果的です。また、「最後まで話そう。」「最後まで聴こう。」「相手のほうを向いて話したり聴いたりしよう。」「相づちを打とう。」「メモをとろう。」など、そのときの状況に応じた約束ごとを用意して行うことも有効です。